

日本歯科心身医学会理事長に就任して

北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系
臨床口腔病理学分野
安彦善裕

コロナ禍のなか、仕事や生活の環境が大きく様変わりした2020年でした。2019年（令和元年）7月末より、本学会の理事長を拝命致し、大変光栄に存じますが、同時に責任の重さをひしひしと感じております。理事長を拝命して直ぐに事務局の交代という大きな出来事があり、これに伴う諸手続きの大幅な変更に追われることとなりました。この間、新型コロナウイルスの感染は拡大し、吉賀大会長のもとで行われる予定であった第35回学術大会は誌上開催となってしまいました。第36回大会は、コロナ禍が落ち着き、北川大会長のもと対面で行われることを切に願っております。

日本歯科心身医学会は「歯科領域の心身医療の発展をはかる」ことを目的として1986年に設立され、来年で36年を迎えます。内田安信名誉理事長を初代にこれまで6代にわたる理事長が学会運営にご尽力され、歯科領域で唯一の心身医療に特化した学会として発展しております。学会活動の中では、学問や教育に関する議論が重視されがちですが、定款にも記載されていますように、「歯科心身医学の発展をはかる」ことが、「国民の健康および福祉に寄与する」ことを、もう一度見直すべき時期にきているように思います。会員がこれまで以上に、歯科心身症で悩む患者様の対応や治療に寄与することが、更なる本学会の社会的地位向上への近道だと思っております。

本学会がこれまであまり取り組んできていない事に、国際社会での活動や交流があると思います。国内の様々な学会では、グローバル化の波に乗り、学術大会の共通言語に英語を取り入れ、他国の同様な学会との交流が活発に行われてきました。本学会でも、韓国で同様な学会が設立されたことをきっかけに、アジアを中心に連携をとるべく模索をしたいと思っております。

コロナ禍がもたらした社会変化の一つに、コミュニケーションのオンライン化があります。本学会の運営状況を鑑みた時に、理事会や代議員会をオンラインで行うことを考えたところ、コロナ禍はこれをあっさり叶えてくれました。また、オンライン診療も叶えてくれました。実際に、オンライン診療で歯科心身症患の対応を行ったところ、対面と同等の効果を実感しております。歯科心身医療は、多くが外科系である歯科において数少ないオンライン診療が対応できる領域であり、コロナ禍がもたらしたチャンスの一つであろうと思っております。コロナ禍で、先の見えない日々が続きますが、学会の発展に少しでも貢献できるよう全力で取り組む所存です。会員の皆様のご支援よろしくお願ひ申し上げます。